

## トマトの灰色かび病の発生が多い

～発病の早期発見と防除対策に努めましょう～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

8月中旬の巡回調査（全県4地点）における灰色かび病の発生株率は16.1%（平年0.3%）、発生地点率は75.0%（平年9.6%）でいずれも高かった（図-1、2）。

今後、昼夜の気温差が大きくなると施設内の湿度が高くなりやすく、灰色かび病の発生に好適な条件となるため、被害の拡大が懸念される。

### 2. 防除対策

#### 1) 耕種的防除

- ①多湿時に発生しやすいので、過度のかん水を避け、施設内の換気に努める。
- ②葉先枯れ等の枯死した部位は発病しやすいため、既に発病した部位とともに早期に除去し、ほ場外で処分する。
- ③果実病斑は、果実が長時間濡れていると発生しやすいので、朝方早めに施設の換気を行い、施設内と果実の温度差をなくして、果実を早く乾かす。

#### 2) 薬剤による防除

- ①発病前からの予防散布に努める。発病を確認した場合は、ジャストミート顆粒水和剤等の治療効果がある薬剤を散布する（表-1）。
- ②耐性菌出現回避のため同一分類薬剤の連用を避ける。特にベンゾイミダゾール系剤、ジカルボキシイミド系剤は耐性菌が確認されているため薬剤の選択に注意する。

### 3. 資料

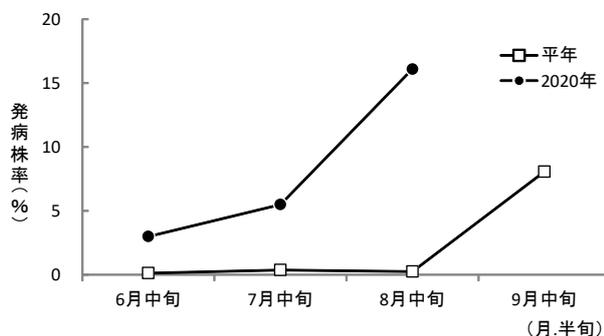


図-1 巡回調査における灰色かび病の発生株率の推移

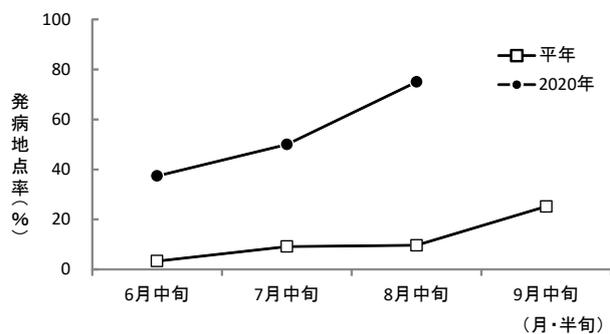


図-2 巡回調査における灰色かび病の発病地点率の推移

表-1 トマトの灰色かび病の防除薬剤

分類	農薬通称	希釈倍数 使用量	散布 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数
W	セイビアーフロアブル20	1000~1500倍			3回以内	ウ
N	フルピカフロアブル	2000~3000倍			4回以内	4
C	カリグリーン	800倍			-	-
H・W	ゲッター水和剤	1000~1500倍			5回以内	アイ
K・W	ジャストミート顆粒水和剤	2000倍	150~300L /10a	収穫 前日 まで	3回以内	ウエ
I・W	スミブレンド水和剤	2000倍			3回以内	イオ
K・O	ダイマジン	1500倍			3回以内	エキ
O	ベルコート水和剤	3000~6000倍			3回以内	キ
O	ベルコートフロアブル	2000倍			3回以内	キ
I	ロブラール水和剤	1000~1500倍			3回以内	カ
I	ロブラール500アクア	1000~1500倍			3回以内	カ

分類

C:無機剤 H:ベンゾイミダゾール系剤 I:ジカルボキシイミド剤 K:EBI剤

N:アニリノピリミジン系剤 O:グアニジン系剤 W:その他の殺菌剤

ア:チオファネートメチル(6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)) イ:ジエトフェンカルブ(6回以内)

ウ:フルジオキシニル(4回以内(種子への処理は1回以内、散布は3回以内)) エ:フェンヘキサミド(3回以内)

オ:プロシミン(3回以内) カ:イプロジオン(4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)) キ:イミノクタジン(3回以内)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>